



# インターネットが盛り上げる NYジャムバンド・シーン

いまアメリカでは

report : 松永誠一郎 ( seichiro\_m@hotmail.com )  
photo : tokiwa takehiko

“ジャムバンド”という音楽ムーブメントが密やかに進行している。“ジャム”とは、いろいろな音楽ジャンルが混ざり合ったような状態を表している。その名のとおり、ジャムバンドはロック、ファンク、ジャズ、ヒップホップすべてを呑み込んで1つのシーンとして認知されているのだ。この流れの中にあるバンドは、グルーブ溢れる長時間のライブ演奏、即興演奏の重視を共通点として精力的なライブ活動を展開している。ジャムバンドシーンの普及には“テーパー”と呼ばれる録音好きのファンたちの存在を無視できない。テーパーはジャムバンドたちの黙認のもと、ライブ会場で演奏を録音(要するに海賊版)して無償で交換し合っている。彼らのおかげで、それまではローカルだったミュージシャンが全米にファンを獲得できるようになったのだ。そしてテープ取引と情報収集の場として、インターネットはもっとも有効に機能してきたのだ。ジャムバンドたちも自らのホームページで未発表ライブ演奏をリアルオーディオやMP3で公開し始めている。メジャーレーベルがこれまで行ってきた宣伝広告に代わるものとして、インターネットを有効な宣伝媒体と認識し始めたミュージシャンたち。彼らの考えるこれからのミュージックビジネスとインターネットの関係など、興味深い話をお伝えしよう。



# Jam 1

## デヴィッド・フュージンスキー & リアン・アンバー夫妻

Jump www.torsos.com

Jump www.lianamber.com

日本からの注文は400枚くらい。  
きちんと数えてないけど、  
とにかく“たくさん”よ

デヴィッド・“フューズ”・フュージンスキーは90年代半ばにカルト的人気を博した“スクリーミング・ヘッドレス・トールズ”のリーダーとして知られ、目ざとい日本のファンからいまだに支持されている。アンダーグラウンドシーンのカリスマ的存在のファンクロック・ギタリストである。現在はラップをフィーチャーした“ブラック・チェリー・アシッド・ラボ”、中近東サウンドを意識した5弦チェロとドラムスとのトリオ“K.I.F.”など、多くの趣旨の異なるバンドを同時進行させている。彼はまたNYアンダーグラウンドシーンのミュージシャンのなかではネットビジネスに熱心に取り組んでいる1人としても知られている。

7年前から、今も住んでいるブルックリンの2棟のアパートで、自分のアルバム作りとライブ活動のかたわら、100人以上の生徒にギターを個人レッスンをしている。今回の取材では彼の自宅に僕がおもむき、ウェブサイト制作で使用しているシステムなどを見せてもらった。

フューズがインターネットに意欲的になり始めたのは、2年前にリアン・アンバーと結婚してからだという。リアンの本職はシンガーで、MP3.comで検索すれば発見できる。彼女はまたコンピュータにも造詣が深く、グラフィックデザイナーとしても活躍している。フューズが寡黙な“ギター馬鹿”(もちろん良い意味で)なのに対して、リアンは話好

き、世話好きで、とても朗らかである。性格的にも違うらしく、リアンが綺麗好きなのに対して、フューズの部屋はいつもごちゃごちゃと散らかっているらしい。バランスの取れた良いカップルなのだ。

フューズのウェブサイトはすべてリアンによりデザインされ、運営されている。2年ほど前にドメイン名を取得して、すべてリアン1人でセットアップしたのだという。昨年フューズがリリースしたCD“ジャズバンク”はウェブでかなり売上げたようだ。リアンはPCのモニターに顧客リストを開いて見せてくれた。世界中のファンの日付、名前、住所といった情報がきちんと整理されている。スクロールが延々と続いたので、その数は個人で管理するにはいささか大変なのではないかという多さだ。

「おかげで週に2回は大量に郵便物を送りに郵便局に行かないといけなくなったわ」

日本からはどのくらい注文が来たのだろう。「個人からの注文が300~400枚かしら。正確な数はきちんと数えないとわからないけれど、とにかく“たくさん”よ」(笑)

このようなインディペンデント系のアルバムの場合、1000枚売り上げればヒットとされるので、日本だけでこの数字はなかなか健闘している。フューズもリアンも、雑誌で自分たちのアルバムを紹介してもらおうのは、なによりも大切なことだと語る。



「日本の音楽誌の新作輸入盤コーナーに小さく紹介されただけなのに、このリアクションなんだから、雑誌の力は大きいわね。レコード店からまとめて60枚欲しいというようなオーダーや、日本でディストリビュートの話も来たわ」

と良いことばかりだ。

個人商会のようなインディペンデントレベルには自分たちの宣伝のほか、どのような良さがあるのか。リアンが答えてくれた。「あらかじめ予算を設定してからレコード制作をできるわね。メーリングリストに入っているファンたちはCDを買ってくれるから、それを逆算して大まかなコストを算出することができるというわけ」

フューズには最近取り組んでいるネットでの新しい仕事がある。

「まだ5人しかいないんだけど、オンライン・チューデントっていうのを始めたよ」

オンラインでのギターレッスンのことだ。

「まずメールや電話で生徒が何を学びたいのかをよく話し合い、練習プランを立てる。それからメールで指導していくのさ。将来はもっと大きくしていきたいと思ってる」

現段階では音のやりとりはないようだが、今後、フューズが演奏したデモをファイルで送信し、生徒がそれをもとに練習するなど、双方がパソコンでMP3やリアルオーディオなどを聴ける環境にあるなら、オンライン・チューデントも十分にイけるはずだ。多くの大学でパソコンによる通信教育で単位を取れる制度を開始しているが、個人レベルとはいえ、パソコンを介して音楽教育を行うのは単なる通信教育よりもテクノロジーの発達素晴らしさを感じさせてくれる。

「これによって世界中のどこに住んでいる人でもフューズから学べるのよ」

リアンが言うと、フューズはうなずいた。

「いま、タイに生徒が1人いるよ」

これは生徒をとることで生計の一部を立てる彼のようなミュージシャンにとっては大変ありがたいことだろう。

結局、レコード店などの店頭で販売されるのと、ウェブで直販するのとどちらがベターなのだろうか。

「両方ともやる、がベストだよ」

とフューズ。

「やはり店頭に並んでいるというのは大事なことだよ」

いまはパソコンでCDを簡単に制作したり、フューズたちのように自分のレーベルを作ったりする人も増えてきている。

最後に、将来的にメジャーレーベルは存続が危ないと思うかを聞いてみた。

「そうは思わないわね。たとえばブリトニー・スピアーズのような音楽にはメジャーレーベルが必要だわ。きっとメジャーはそういう人たちのために残っていくと思うの。でも、私たちみたいな音楽をやっているミュージシャンにはインディペンデントというのはとても良い方法だと思うわ」



結婚して2年だが、まだまだ新鮮さを失わない2人。フューズが持っているのはお気に入りの1/4音フレットギター（左）、フューズのクリエイティブのための小部屋。壁の紫色がなんとも言えずサイケデリック（下）



## Jam2 ピーター・サレット

Jump www.petersalett.com

プロデューサーに僕のURLを教えたら  
すぐに曲を聴いて  
ラジオで使わせてくれって言ったんだ

フュージンスキーがインディペンデントレベルに居心地の良さを感じて固執するのに対して、N.Y.とL.A.をメインに活動を続けるシンガー、作曲家、俳優のピーター・サレットは、メジャーへの進出を狙っている。彼は厳密にはジャムバンドのミュージシャンとは

言えないが、NYアンダーグラウンドシーンにおいてジャムバンドと密接に繋がっている。ジャムバンドのレンジの広さの一例である。

約束の時間から30分遅れて、待ち合わせ場所のグリニッチ・ビレッジにあるカフェ・レジオ（映画「ゴッドファーザー」のロケで



使われたという老舗カフェ)にピーターは現れた。我々は店の前の明るいオープンテラスに陣取り早速インタビューに入った。彼はそのルックスからも70年代のフォークロックのニュアンスを漂わせる、性格も話しぶりも穏やかで素朴な青年である。ピーターは折しもこの取材の前後に新作「Heart Of Mine」を自分のインディペンデントレーベルからリリースするところであった。彼のアルバムには、いまジャムバンドシーンで話題のバンド“SEX MOB”のリーダーであるスティーヴン・パーンスタイン(tp)が3曲で演奏、アレンジを担当しているほか、やはりNYアンダーグラウンドではよく知られているトレイシー・ポーナム(vln)も参加している。

ピーターもフュージンスキーのようにメジャーレーベル契約を持たないローカルミュージ

シャンなのだが、大躍進の契機となるかもしれない嬉しい出来事がある。アルバム中の同名タイトル曲「Heart of Mine」が全米公開中のエドワード・ノートン主演の恋愛映画「キープ・ザ・フェイス」のサウンドトラックに使用されているのだ。映画のなかの重要なシーンでかなり頻繁に使われているのだという。

ウェブサイトが彼の成功に多少なりとも貢献したのだろうか。

「ウェブのいいところかい？」

ピーターは答えてくれた。

「そうだな、単にCDを売るだけではなく、最近の活動、MP3のような音声ファイルを試聴できるようにすることで、自分のいろいろな広告になるということかな。それに物事がなんでも早く済むようになった。今まではテープを郵送して聞いてもらって、返事を

もらって……と、連絡を取るのに2週間くらいかかった」

こんなことがあったよと、ピーターは最近あったエピソードを1つ披露してくれた。

「ある時、ラジオのプロデューサーと話をして僕のウェブのアドレスを教えただ。彼は僕との話が終わったあと、すぐにウェブで僕の曲を聴いてくれて、2時間後には電話をかけてきてくれた。『君の曲が気に入ったから、ラジオで使わせてくれ』って言われたよ」

インターネットでの試聴サービスはインディペンデント系のミュージシャンのプロモーション活動に大いに役立っているという確かな実例である。

彼のCDはインターネットで購入できるが、まだクレジットカード決済はできない。「それが問題なんだ。誰もチェックを送ってまで買おうという人はいないんだよね(笑)。

いま、クレジットカードで決済できるように  
手続きを進めているところだよ」

ウェブサイトは彼の友人が作ってくれてい  
るのだそうだ。

「でも、テキストの更新は自分でやってる。だ  
から文章はすべて僕の書いたものだ」

今後のネットビジネスについては？

「どうやって僕のウェブサイトのことを知って  
もらうかが問題だ。レコード店が近くにない  
所に住んでいる人でも僕のCDを手に入れ  
られるというのは魅力的だね。今後は、僕  
もネットビジネスにもっと力を入れていかな  
ければならないと思ってる」

このインタビューが行われた週末、ロウア  
ーマンハッタンのパワリー・ボールルームで  
彼のCDのリリースパーティーが行われた。オ  
ールスタンディングで収容人数700~800人  
くらい。大物ミュージシャンも数多く演奏す  
るNYアンダーグラウンドシーンでは大きめの  
ライブハウスだ。坂本龍一も今年になってか  
らここでライブを行っている。この夜の会場



グリニッチ・ビレッジのカフェの前で。  
静かな物腰が印象的である。

はほぼ満員に近い集まり。前座のバンドが終  
わり、10時過ぎになっていよいよピーターの  
登場である。彼が自分のバンドを引き連れて  
ステージに登場すると一斉に歓声上がる。  
フォークギターを片手に持ったピーターは70  
年代のジェームス・テイラー、トム・ウェ  
イツを思わせ、サウンド的には現在のマシュ  
ー・スウィートなどに近いレトロ・ロックで

ある。ピーターはフォークギターを弾きなが  
ら「マグダレーン」(ネット上で試聴できる)  
を歌い始めた。タイトなバンド演奏に支えら  
れて、1時間半のライブは終始ダレることな  
く、ピーターの歯切れの良いギターと朗々と  
したボーカルが観衆を圧倒させた。

ライブ終了後、観客のなかに映画監督ク  
エンティン・タランティーノ、俳優イーサ  
ン・ホークと女優ユマ・サーマンの夫妻を発  
見。ピーターは映画関係に知人が多いとい  
うが、まさかタランティーノがチェックに  
来ているとは……。会場地下のバーは、ピー  
ターのCD即売サイン会とビールを飲んで会  
話を楽しむファンで溢れ返っていた。その混  
雑のなかで僕はタランティーノと話をす  
る機会に恵まれた。音楽ライターだと名乗  
ると「ピーターをどう思う？」と逆に質問  
をされた。とても良いと思うと答えると、  
彼は納得したようにうなずいていた。いま  
新しい映画のための脚本を書いていると  
ころだということで、彼の次回作のサント  
ラにはピーターが起用されることがあり  
得るかもしれない。

# Jam3

ジェフ・パトリック・クラスノー

Jump [www.velourmusic.com](http://www.velourmusic.com)

Jump [www.soulive.com](http://www.soulive.com)

あらゆる情報産業がフリーになると思  
う。王様がバッハのパトロンだつたよ  
うな、そんな現象がまた起きるかも  
しれない。

インディペンデントレーベルと一口に言ってもその規模は大小さまざまである。郵便局の私書箱にしか存在しないものもあれば、いまNYのジャムバンドでもっとも人気の高いバンドの1つ「ソウライヴ」の所属するヴェロア・レコーディングスのように、多くのミュージシャンを抱え、レコーディングスタジオも備えたオフィスを持つ本格的なところもある。

現在29歳のヴェロア・レコーディングスの若き社長ジェフ・パトリック・クラスノー氏は、ソウライヴのギタリスト、エリックの実兄でもある。ジェフの話聞いていくと、彼の履歴はジャムバンド、そしてインディペンデントレーベルの隆盛そのものだということがわかってくる。

シカゴで生まれたジェフは幼い頃から両親の都合で全米各地を転々として育った。コロンビア大学在学中はカレッジのラジオ局WKGRで働いていた。ジャムバンドには、大学のラジオ局でオンエアされて人気が出た地元バンドが、インターネットの普及と比例して全米各地に知れ渡っていったという経緯がある。大学のラジオ局は時代の流れに一番敏感なところで、現在でもジャムバンドは大学生のような若い年齢層を中心に支持されているのだ。ジェフが大学時代に、後にジャムバンドとして一大ムーブメントになるローカルなバンドに接して、いまの自分の方向性のヒントを得たのは間違いないだろう。メジャーレーベルのRCAレコードに3年間勤めた後、インディペンデントレーベル「チェスキー」に移り、インディペンデントの経営ノウハウと多少のエンジニアリング技術を習得したようだ。そして2年前にまずスタジオを作り、1年半前に満を持してヴェロア・レコーディングスをスタートさせた。必要なことを学び取った後に、20代で独立して起業、そしてソウライヴのようなエキサイティングなバンドをプロデュースして見事に成功を収めている。現在、ヴェロアにはUlu、Topaz、Babaなどのミュージシャンが所属している。そのなかの1人ShumanのLPは日本でかなり売り上げているのだという。

「僕がRCAにいた頃、」

ジェフは話し始めた。

「会社の人間はネットビジネスに躊躇してた。リスクを背負ってまでやろうとする人はいなかった。革命は常に小さいビジネスから起こるんだ。彼らは落ちてしまう可能性があるけど、我々は上るだけだからね」

ヴェロアのウェブサイトでもCDは順調に売れているが、売り上げのバランスでは、まだレコード店のほうが収益があるそうだ。ネットならではのメディアMP3に関する彼の考え方はどうなのだろうか。

「MP3が売り物になるという考えは疑問だ



相棒デヴィッド・ウォーラスとヴェロア所属のラップ・ミュージシャンBABA（左の帽子）

ね。そうなると思うかい？僕はMP3はあくまでもフリーだと思う。いまこうやって無料でダウンロードできるようになってしまっているのだから、誰が金を払ってまでダウンロードするだろう？それよりも、このテクノロジーが逆に利用されてソウライヴのCDがMP3になってインターネットで配られるようになったら脅威だよ。ミュージシャンやレーベルはどうになってしまうのか。とんでもないよね（笑）。その点では少しナーバスになってるよ。でも僕は人々はまだ（CDのような）製品を

手に取りたがっていると思うんだ」

もちろんテクノロジーの恩恵も受けている。「反面、僕のようなスモール・ガイにとってはMP3はチャンスでもある。人々がウェブサイトでソウライヴをチェックしてくれるからね。信じられないことに、mp3.comでソウライヴは一日に1万5000件ダウンロードされているんだ。一日にだよ！」

しかしフリーのMP3の影響は切実に捉えているようだ。ジェフは今後、「情報」はインターネットなどのテクノロジーの発達によって、もっと無料化すると想像している。

「あらゆる情報産業が無料化されてしまうのではないかと思うよ。これから先20年くらいすれば、力という意味からも、金銭を支払うという意味からも、文字通り“フリー”になってしまうと考えられる。音楽などの芸術も、大昔に王様がパッハなどのパトロンであったような、そんな現象がまた起きるかもしれない。ただそのパトロンがIBMやコカコーラのような大企業だったりするわけだ。彼らが芸術に助成金などを出すようになると、僕たちはコーラを買うのにその分高い金を支払うようになるんだ。人々は芸術を必要としている。もし音楽が売りものにならなくなってしまったら、誰がサポートしてくれるだろうか？政府がやってくれるだろうか。僕はそうは思わない。僕はそうやって20年後のモデルを想像しようとしている。単に頭の中での話だけだね」（笑）

テクノロジーがいくら発達しようとも、結局は人間同士のつながりが最も重要になってくるのではないか。ジェフもその辺りに希望を持っているようだ。

「どんなに大きくなろうと草の根の部分は変わらないと思うんだ。今でも多くのバンドはメールリストを作って個人個人に情報を送ってる。誰かが『おいジョン・スコフィールドがソウライヴと演ってるやつ聴いてみるよ！』と言えばそれが他人に影響を及ぼすんだ。口コミによってコミュニティは枝葉が分かれるように広がっていく。MP3はそのためには良いメディアだよ」



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)